

アオコのセンサー検出のための現地観測

「アオコ」と呼ばれる一部の藍藻類の異常増殖は、景観の悪化に加えて、水道水の異臭味や毒化の原因となるため、世界各地で深刻な問題となっています。また、地球温暖化の進行に伴って、その被害が拡大するとも予想されています。

日常的な水環境管理が必要となるダム湖や浄水用ため池では、通常、顕微鏡を用いた検鏡調査が実施されていますが、アオコのセンサー計測が実用化されれば、計測の効率性や経済性が向上するだけでなく、リアルタイムでのアオコ監視も可能となるため、結果として、より安全で健全な水環境の確保に貢献できると考えています。

このため、我々は現場センサー（多波長励起蛍光光度計）によって、大型の藍藻（≡アオコ）の発生の有無を判定する方法を提案しています。本研究では、環境条件が異なる複数の水域において現地調査を実施し、本手法の汎用性を確認するとともに、アオコの推定精度を向上させるための検討を行います。

